

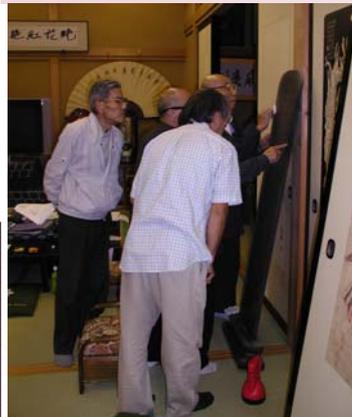
# 山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



寺誌資料作成作業→

## 『仁叟寺誌』遂に刊行



『仁叟寺誌』が来月5月に刊行される運びとなりました。平成13年8月末に寺誌編纂委員会が発足し、爾来足掛け7年にわたった一大事業もようやく終了となったわけです。

かんしゅう

監修には住職の学生時代の恩師である

ほかそのとよろか

外園豊基早稲田大学教授を依頼し、ご多忙中時間を割き尽力くださいました。編纂委員の方々はもとより、町教育委員会、町文化財保護委員、佛教造形研究所、県文化財研究会、日本古鐘研究会はじめ多くの関係者のご協力を賜り、刊行となった訳であります。

にっしゅうじゆさく

龍源寺は、仁叟寺九世日洲壽朔大和尚が多胡の地に開山をしたことによりその歴史が始まります。寺誌中にも龍源寺についての記述も多数あり、また歴代住職は仁叟寺に晋住する住職も多く、非常に強い法縁で結ばれております。住職も仁叟寺の副住職を務め、また微力ながら寺誌編纂の事務局として編纂作業に携わりました。是非、この機会に菩提寺の歴史を理解していただきたく、『仁叟寺誌』のご一読を茲にお願い申し上げる次第です。

『仁叟寺誌』は全1,200ページ。第1章～第21章までの構成があり、仁叟寺の歴史はもちろん、地域や仏教の歴史など多岐にわたって記されております。寺誌の購入をご希望の方は、住職までお問い合わせください。

なお、当寺誌発刊にあたり、龍源寺の仏像調査や梵鐘調査なども行わせていただき、多くの新たなる発見もありました。折をみて広報させていただきたく考えております。



↑岡部先生による仁叟寺の仏像講義

### 平成19年 龍源寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈祷
- 1/3～1/7 年始挨拶
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/12 大般若・大施食会
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18～3/24 春季彼岸会
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 7/13～7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7月下旬 第26回子供禪の集い
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋季彼岸会
- ※10月中旬 参拝研修旅行
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は御本寺仁叟寺にて開催

## 渡辺俊司上座結婚式

住職の実弟で弟子にあたる渡辺俊司上座の結婚式が、4月28日（土）長昌寺栗木信昌ご住職式師のもと仁叟寺本堂にて挙行されました。披露宴はその後、サンコーグループ社長寺本欣一夫妻ご媒酌人のもとサンコー72カントリークラブにて行われました。

俊司上座は、龍源寺で生まれ、駒澤大学卒業まで龍源寺で育ちました。のち、大本山總持寺に二年間安居修行し、地元のサンコーグループに就職いたしました。また住職の晋山結制式の折には、首座という大役を立派に務め、龍源寺とも法縁 ↑ 結納の様子 篤く、これからの宗門を担う若手宗侶であります。

これからのお二人の洋々たる航海を祝し、エールを贈らせていただく次第です。



## 仁叟寺通信-20- 『仁叟寺誌』

冒頭記事でも紹介したとおり、5月に『仁叟寺誌』が漸く発刊の見通しとなりました。足掛け7年にわたる大事業もこれで一段落いたします。寺誌中には、龍源寺の歴史はもちろん、地域や仏教の歴史、住職の論文なども掲載されました。以下、住職の記した編纂のあとがきより抜粋をし、掲載いたします。

つかみほん  
↑ 『仁叟寺誌』 東見本

「（前略）「温故知新」という言葉のとおり、歴史という過去を知ることにより、今現在がこの眼前にあることを認識し、さらにはこれからの未来に繋げること、これが歴史を知ることだと思います。多くの方々の尊いご縁の結晶で、この『仁叟寺誌』が刊行されました。改めて、感謝申し上げますとともに、偉大な先達が歩んで来られた足跡を知り、いま仁叟寺が、そして自身が何を為すべきかを問い、精進をさせて頂く所存であります。（後略）」

## 龍源寺探索-17- 十三佛画幅

今回の龍源寺探索は、当寺所蔵の十三佛画幅を紹介いたします。龍源寺では、ご葬儀から四十九日法要までの、いわゆる中陰の間、施主家の祭壇に十三佛さまの画幅を掲げていただき、ご供養を行っていただく伝統があります。その画幅は龍源寺より打掛と共に貸与し、四十九日法要の際に返却をしていただくごとになっております。現在、画幅は数点あり、施主名がある軸は三点あります。それぞれ、「多胡 白田実寄進」「矢田 江川俊廣寄進」「東京 山田仁寄進」とあります。

この十三佛画幅は、十三佛信仰が基となっております。故人の冥福を十三佛さまに祈り、また十王信仰と結びつき、年忌法要の基ともなったといわれております。十三佛さまはそれぞれ、不動明王・釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩・地藏菩薩・彌勒菩薩・薬師如来・観音菩薩・勢至菩薩・阿彌陀如来・阿闍如来・大日如来・虚空蔵菩薩と



↑ 白田実氏寄進「十三佛画幅」

## 総代人交代のお知らせ

前回の龍源寺報でもお伝えしたとおり、総代人の交代が正式に決定をいたしました。新任された方々は右の表にあるとおりです。

恒例の4月29日の蚕影山祈禱会兼大施食会および檀信徒総会の席上で、感謝状の表彰および委嘱状の授与を行わせていただきました。

長い間、総代長として檀信徒の代表を賜った宇佐美源吾翁に改めまして感謝申し上げますとともに、新しく任に当たる方々におかれましては、更なる菩提寺寺門護持のため、ご尽力をお願い申し上げます。

### 龍源寺総代役員会配役

顧問	宇佐美源吾翁（多胡）
総代長	小林茂氏（矢田）
総代人	出牛裕一氏（松田）
総代人	田中忠男氏（多胡）
筆頭役員	田端良作氏（多比良）
役員	出牛均氏（松田）
役員	白田実氏（松田）
役員	篠崎悦一氏（多胡）
役員	小林昔人氏（多胡）
役員	金井理夫氏（矢田）
役員	金井一二三氏（矢田）

### りょくいん

## 緑蔭禅の集い及び子供禅の集い参加者募集中



↑ 子供禅の集い風景

住職が会員を務めます群馬県曹洞宗青年会が主催となり（曹洞宗群馬県宗務所、大本山永平寺、大本山總持寺、上毛新聞社、讀賣新聞社、産経新聞社、群馬テレビ、FM群馬、ラジオ高崎など後援）恒例行事である「第45回緑蔭禅の集い」が仁叟寺を会場に行われます。また、小学校3年生から6年生を対象とした「第27回子供禅の集い」も同じく仁叟寺を会場に行われます。それぞれ、参加者を募集しております。この機会に是非、ご参加を呼びかけ、禅を組み自己と向き合う時間を作っていたければ、と思います。

日程は、それぞれ緑蔭禅の集いが6月23日（土）～24日

（日）、子供禅の集いが7月23日（月）～24日（火）のいずれも一泊二日となっております。詳細などのお問い合わせは、住職までお願い申し上げます。

### ざぶとん

## 坐蒲団を一新いたしました

既にご存知の方もおられるかもしれませんが、龍源寺の坐蒲団が一新されました。京都の染料専門店に依頼し、鮮やかな藍色の坐蒲団カバーを昨年11月に新添いたしました。多胡の新井岩雄氏の寄進によるもので、龍源寺の寺紋である「丸に違い鷹の羽」が染められております。氏は、亡き妻皓月榮照大姉菩提供養として菩提寺に浄財を寄進。その貴重な浄財でもって本堂の坐蒲団を一新させていただきました。

是非、菩提寺に訪れる際に、拝見していただきたく存じます。



↑ 龍源寺寺紋入藍染坐蒲団

# 平成18年度寄進物品及び寄進者報告

平成18年4月29日  
爲 駒家先祖代々菩提供養  
施主 兵庫 駒一俊  
寺族墓地改修費用一部



平成18年6月24日  
爲 今井家石塔開眼会供養  
施主 矢田 今井菊美  
佛旗国旗掲揚台



平成18年7月1日  
爲 酒井家先祖代々菩提供養  
施主 多胡石材産業株式会社  
佛旗国旗掲揚台工事一式



↑ 昨年に行われた  
寺族墓地開眼供養

→ 佛旗国旗掲揚台

平成18年11月12日  
爲 皓月榮照大姉菩提供養  
施主 多胡 新井岩雄  
坐蒲団カバー一式

平成19年3月29日  
爲 岩上家石塔開眼会供養  
施主 藤岡 岩上みよ  
華皿一基

↑ 十三佛画幅



→ 坐蒲団カバー

平成19年4月8日  
爲 白田家先祖代々菩提供養  
施主 松田 白田実  
十三佛画幅一軸

↓ 華皿



## 行雲流水 (編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

今年も恒例の行事である蚕影山御祈祷会および大施食会法要が無事修行できました。とくに今年は、高崎市の恵徳寺須田淳哉ご住職による御法話を賜りました。厚く御礼申し上げます。また引き続き行われました、檀信徒総会では、新しい総代役員各氏がその任にあたることとなりました。宇佐美源吾前総代長さんは、長きにわたり菩提寺龍源寺の護持運営に携わって来てくださいました。本当に感謝しております。また、新たに任にあたる各氏におかれましては、宜しく願い申し上げます。

記事中にも紹介いたしました『仁叟寺誌』も漸く刊行の運びとなりました。7年に亘った寺誌編纂事業もこれで一段落です。多くの尊いご縁に改めて感謝申し上げます。

→ 悠々と泳ぐ鯉のぼり

